

きゅうり先端肥大症の発症助長要因

本県産きゅうりにおいて、夏期高温期に流通段階で果実先端が奇形肥大する障害（写真1、以下、「フケ果」）が生じ問題となっていますが、発症要因が明らかとなっていないため調査を実施しました。

【1 成果概要】

(1) 発症を助長する要因

- ア 訪花昆虫による受粉によってフケ果発症は助長されます（図1）。
- イ 開花から収穫までの日数が短い場合、フケ果発症が助長されます（図2）。なお、高温や強日射、高日較差（最高気温と最低気温との差）により開花から収穫までの日数は短くなります。

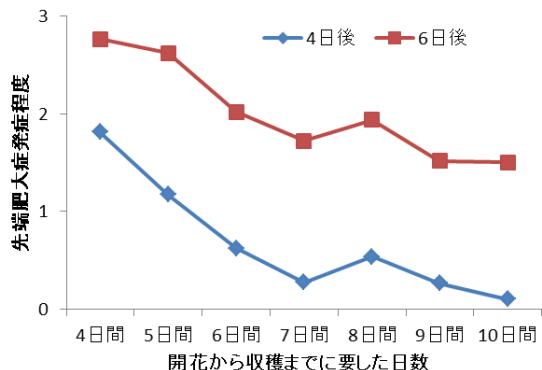
(2) 発症を助長しない要因

- ア 品種による明確な差はありません（表1）。
- イ かん水同時施肥技術によって生育期の草勢を維持してもフケ果発症に影響はありません。
- ウ 収穫した側枝や節、摘果及び摘葉強度によってフケ果発症に明確な影響は認められません。



☆きゅうり先端肥大症（通称：フケ果、コブラなど）
夏期高温年に多発する流通性障害で、通常収穫時には発症せず、収穫数日後に発症する。ほとんどの場合、肥大部には種子の形成が認められる。

写真1 フケ果発症状況（左：荷姿 右：断面）



注) 果実個々に集計し同一開花後日数となる果実数が5以下のものは除いて示した。

図2 開花から収穫までに要した日数と発症程度

【2 留意事項】

- (1) ハウス栽培では訪花昆虫が少ないため発症量が少ないと推察されます。そのため、ハウス栽培であっても受粉する環境であれば発症する可能性があります。
- (2) 対策法は「鮮度保持フィルムを用いたきゅうり先端肥大症軽減効果」を参照して下さい。

※ 本研究は、食料生産地域再生のための先端技術展開事業（復興庁、農林水産省）により実施しました。

担当研究室 園芸技術研究部 野菜研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4419 FAX. 0197-71-1083

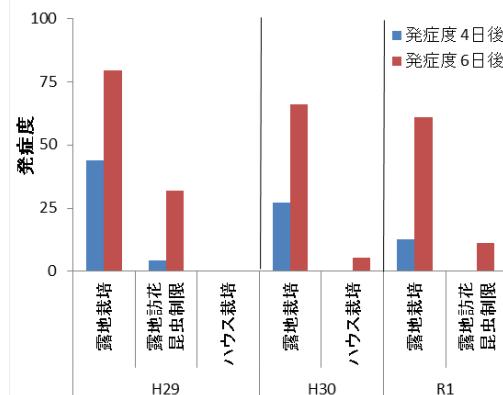


図1 訪花昆虫制限によるフケ果への影響

表1 品種が先端肥大症に及ぼす影響

試験年次	穂木品種	台木品種	発症度	
			4日後	6日後
H28	夏ばやし	ときわパワーZ2	56.3	100.0
	Vショット	ときわパワーZ2	68.8	100.0
	豊美2号	ときわパワーZ2	93.8	100.0
	艶香	ときわパワーZ2	50.0	100.0
	大望I	ときわパワーZ2	87.5	100.0
	大望I	ハドラー	56.3	100.0
	大望I	ゆうゆう一輝(黒)	75.0	100.0
H29	プロジェクトX	ときわパワーZ2	68.8	100.0
	大望I	ときわパワーZ2	50.0	81.3
H30	南極1号	ひかりパワーG	13.1	68.8
	大望I	ときわパワーZ2	27.3	66.1

注1) 発症程度、発症度は表1に同じ

2)「プロジェクトX」を含めて全て露地栽培